

三高でサステイナブルファッションを実現するためには

宮城県仙台第三高等学校 45 班

要旨

近年、SDGs や環境問題に対する関心が高まっている。そうした情勢もあり、多くのアパレル企業が売れ残った大量の服を処分していることを耳にしたことがあった。しかし、先行研究を進めていく内に、その実情は想像よりも深刻な環境問題を抱えているのだと感じさせられた。また、三高は生徒の自主性を重んじ私服を採用している。消費者として服に関わることの多い学校だからこそ、高校生目線でファッション業界の問題の改善を図りたいと考え、三高で服の循環を作る、すなわち、三高でサステイナブルファッションを実現させることを目指し、探究を進めてきた。

キーワード：サステイナブルファッション、大量生産・廃棄、古着

I. はじめに

「サステイナブルファッション」という言葉を知っているだろうか。サステイナブルファッションとは、生産から廃棄までのプロセスで持続可能であることを目指し、環境や人、社会に配慮した取り組みのことを指す。(注¹)

私がこのテーマを設定した背景には、ファッション業界が多くの環境問題を抱えていることが挙げられる。環境省の HP より引用した図¹によると、服の原材料調達段階で、年間約 90,000kt もの二酸化炭素と約 83 億 m³の水が消費されている。このように、服の生産に対する環境負荷は想像以上に大きい。また、仙台三高は私服を採用している学校である。そのため、生徒自身が服の取捨選択をする機会が多いと考えられる。そのような環境だからこそ、服の環境問題や循環に対して高校生なりの視点と具体的な行動で関わっていけると考えた。

原材料調達段階の環境負荷

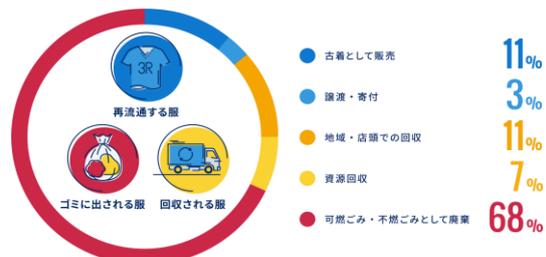


図¹) 環境省の HP(注¹)より

はじめに、環境省実施のアンケート調査(注¹)を元に、服の廃棄の仕方について調べた。図²によると、約 7 割の服は可燃ごみとして処分されている。このことから、私は廃棄の仕方を変えることで、高校生であっても具体的な行動で、ファッション業界が抱える環境問題の改善が図れると考えた。

次に、環境省の同アンケートを元に、サステイナブルファッションに対する意識がどの程度あるのかを調べた。図³によると約 6 割の人は、関心を持っているようだ。しかし、実際に行動に移している人は 5%にも満たない。このことから、関心はあるが具体的にどのような行動を取ればよいのかが分からなかったり、行動に移す機会を得られていないことが考えられる。そのため、多くの人が参加しやすいサステイナブルファッションの取り組みを、探究を通して行おうと考えた。

服を手放す手段の分布



図²) 環境省の HP(注¹)より

II. 研究方法

i) 事前調査



図3) 環境省のHP(注1)より

続いて、アパレル企業がどのような取り組みを行っているのかを調べた。ユニクロやGUなどのアパレルブランドを展開するファーストリテイリンググループでは以下のような取り組みを行っている。(図3)

- ペットボトル素材の利用(GU)
- 環境に配慮したジーンズ作り(GU)
- リサイクルポリエステルを採用(GU)
- 服から服へのリサイクル(ユニクロ)
- 資源にリサイクル(ユニクロ)
- 世界の難民に衣料支援(ユニクロ)

ファーストリテイリンググループが行う服のリサイクル活動



図3) 利府イオンで撮影

ii) 研究内容の検討

以上の事前調査から、高校生の自分たちでも関わりやすい”廃棄”の部分に着目して探究を進めていくこととした。当初は、「古着回収を実施し、NPO 団体等に寄付する」ことを目標に活動を進めていこうと考えていたが、担当の先生に「それでは、三高で服の循環を作っていることにはならないのではないか。服と企業の仲介をするのは探究でなくてもいいのではないか。」

というご指摘を頂いた。このご指摘から、”三高内で”服の循環を作ること重点を置き、話し合いを行い、「不用品回収を行い、自分たちの手で学校や地域で使えるものにリメイクする」ことを目標とすることにした。

III. 探究内容

話し合いをもとに、以下のように活動を進めていった。

1. 不用品回収を行う
2. 回収した服の選定
3. リメイク
4. 学校や地域の団体に寄付
5. リメイク制作で出たハギレ布の利用方法の検討
6. ハギレ布の活用

まず、7月15日～7月31日の2週間にわたって、不用品回収を行った。回収期間をこの期間にした理由は、この期間が夏季休業前・夏季休業期間にあたるため、服を持ってきやすいと考えたからである。宣伝には、ポスターとclassroomを用いた。下着や汚れが酷いものは回収箱に入れないように事前に注意書きをした上で回収を行い、約40着の服とスパイク一足が集まった。

廃棄されるダンボールを使って作成した回収箱を使って不用品回収を行った。



図4) 作成した回収箱

次に、集めた服を以下の3つにグループ分けした。

- ①家庭科のミシン練習に使えるもの
→綿100%のもの
- ②リメイクできるもの
→綿100%、デニム生地、リメイクをする上で扱いやすいと判断したもの
- ③扱いが難しいもの
→①・②以外のもの

想定していたよりも多くの服を回収できたが、保管場所や回収した服の管理において課題が見つかった。

続いて、選定した服を用いてリメイク品を作

成した。作成したのは、コースターとチョーク
入れである。コースターを作成した理由は、鶴
ヶ谷子ども食堂に来てくださった人に渡すもの
として、持ち帰りやすく、性別や年齢問わず使

えるものだと考えたからである。チョーク入れを作成した理由は、生徒会に予め、必要なものがあったらいいと思うものを聞いたところ、チョーク入れと回答があったからである。また、コースター、チョーク入れともに、裁縫経験が少なくても作りやすいことも理由として挙げられる。(図⁵)



図⁵) 回収した服をリメイクし作成したコースター(左)とチョーク入れ(右)

作り方は動画サイトに投稿されていたものを参考にし(注²)、これらのコースターとチョーク入れは、それぞれ鶴ヶ谷こども食堂と仙台三高生徒会に寄付した。(図⁶)



図⁶) 鶴ヶ谷こども食堂に寄付する様子

この活動を通して、服のリメイクには時間と手間が予想以上にかかり、ハギレ布も多く出てしまうことが分かった。この一連の循環の流れをシステム化するためにはこの手間や効率の部分で課題が残っていくと考えられる。

最後に、リメイクの際に出たハギレ布の利用方法について話し合った。ハギレが細かく、布としての活用は難しいと考えたため、綿のかわりに細かいハギレを詰めた針山を作成することにした。こちらも、作り方は動画サイトに投稿されているものを参考にした。(注³)



図⁷) ハギレ布から作った針山

IV. 考察

事前調査で調べたアンケートでは、サステイ

ナブルファッションに対する関心が全体の6割を占めていたが、探究活動を通して、実際には、サステイナブルファッションの取り組みや考え方は、まだまだ浸透していないのが現状であるように思われた。そこで、サステイナブルファッションを広めるためのポスターの掲示やサステイナブルファッションの取り組みを紹介する機会を増やし、気軽に参加したり、日常の中に盛り込んでいける活動がもっと必要なのではないかと感じた。また、何度リメイクをしても完全に余分な部分をなくすことはできず、100%循環させることの難しさを痛感するとともに、リメイクを行うには多くの時間と手間がかかることが分かった。そのため、服の循環のシステムを作っていくには、かかる時間や手間を減らしていくことと、効率を上げていくことが課題になっていくと思われる。そして、活動を進めていく中で、服を循環させるために、発展途上国に衣料の支援を行うことが、返って、発展途上国に要らない服の山を作っていることを知り、服の大量生産の問題の複雑さ解決の難しさを実感し、“必要な人に必要な分の服”を届けるシステムが必要だと強く感じた。

V. まとめ

探求活動を通して、一口に「服の循環を作る」といっても、それを実現させるためには、様々な問題が絡んでいるため多くの問題を解決しなければならないことを実感した。また、発展途上国に服の山できていることから分かるように、解決しようとして講じた活動により新たな問題が発生することを知った。服の循環システムが備わった社会の構築を目指すことは大事なことだが、前提として、買った服を長く使えるように、各個人が手入れをしっかりと行っていくことも大事なことだと気付かされた。さらに、立命館宇治高等学校との交流から、違う視点を持った人との交流によって、自分たちでは思いつかなかった考えを得れることを実感した。このことから、サステイナブルファッションや服の大量生産に関心を寄せる高校生同士の意見交換の場を増やして行くことで、より自分たちのできるサステイナブルファッションを進めていけるのだと思った。最後に、一筋縄ではいかない問題ではあるが、買った服を大切にしより長い間使えるようにすること、手放したあとのことまで責任を持てるような活動や仕組みを模索し、多くの人で意見交流の場を持つことによって、少しずつでも、服の問題は改善していけると考えている。現代の社会では、服と生活は結びついており、切り離すことはできない。そのため、直接的な改善にならなくとも、学校や地域社会という小さな単位で具体的なサステイナブル

ファッションの活動が講じられ、その活動が長く続くことを期待している。

参考文献

注¹ 環境省_サステイナブルファッション
https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/

注² 【簡単！コースター作り方】 1回縫うだけでパッチワーク風のコースターが出来る

https://www.youtube.com/watch?v=O_sfA3zdDrE

【ハギレ活用！】簡単かわいいピンクッションの作り方

<https://nuinavi.com/pincushion>